
当院におけるバスキュラーアクセス管理

菊地あゆみ、福島久美子、加々谷智子、武藤由紀子、齊藤 緑、渋谷由紀子、
山舘美和子、佐藤百合子、土屋由美、齊藤智子、佐藤 智、佐藤繁善、田原好浩、
立木 裕
立木医院 透析室

Vascular access management in our clinic

Ayumi Kikuchi, Kumiko Fukushima, Tomoko Kagaya, Yukiko Muto,
Midori Saito, Yukiko Shibuya, Miwako Yamadate, Yuriko Sato,
Yumi Tsuchiya, Tomoko Saito, Satoshi Sato, Shigeyoshi Sato,
Yoshihiro Tahara, Yutaka Tachiki
Tachiki clinic

<緒言>

透析治療においてバスキュラーアクセス（以下VA）は必要不可欠であり、VAの管理は患者、医療者にとって重要である。

当院にはVA手術設備や経皮的血管内治療に必要な血管造影設備がなくVA再建や経皮的血管拡張術（PTA）を基幹病院へ依頼している。しかし診療報酬上の3ヶ月ルールがある中、維持困難な場合があり突然閉塞などで基幹病院へ迷惑をかけてきた。

そこで簡便な方法でVAを良好に管理できないかと考えて医院独自の管理方法の確立を目指した。

<研究目的>

あさおクリニックのSTSを参考に¹⁾、当院のVA管理に合わせ一部改編したシャントスコアリングシート（STS）を作成し、理学的所見を中心にVAの評価を行い、VAの長期維持と突然閉塞を避ける事を目指した。

<対象と方法>

対象：2015年から2016年まで2年間で、のべ125名の維持透析患者を対象とした（図1）。

方法：STSを使用したVAチームを立ち上げ、週1回の定期STSチェックを施行。異常がある場合においては毎回チェック。チェック日以外は穿刺担当者がチェックし、異常時VAチームへ報告、VAチームは医師への報告と共に検査等を検討した。

STSシートは透析前、透析中、透析後に分けて観察した。PTA後、VA再建後、ステント留置後は透析毎チェックし2週間後より定期チェックへ移行した。

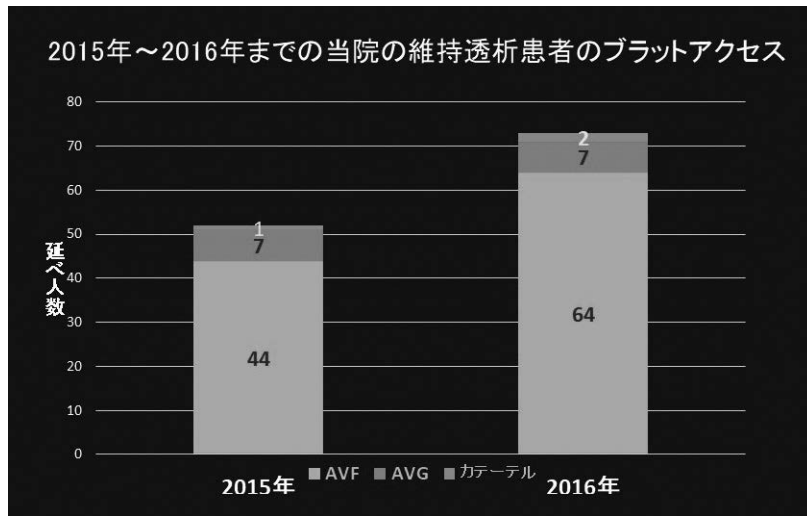


図1 対象

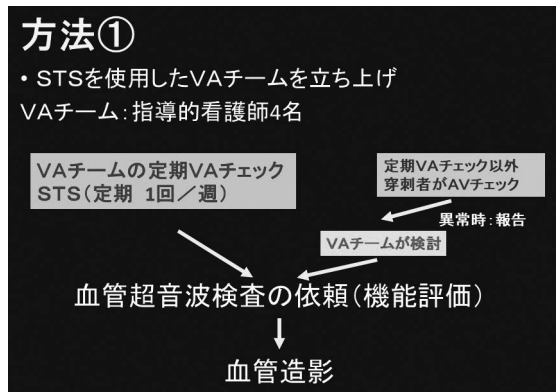


図2 VAチェックの流れ

方法② STSシート (参考 あさおクリニック)

| 項目 | スコア |
|---------------|-----|
| 患者からの異常の訴え | 1点 |
| 皮膚状態(かぶれ、発赤等) | 1点 |
| 透析前 | |
| シャント音 狭窄音 | 1点 |
| 拍動音 | 3点 |
| 聴取不可 | 5点 |
| 狭窄部位を触知 | 1点 |
| 吻合部スリル触知不可 | 2点 |
| 瘤の有無 | 2点 |
| 透析中 | |
| 脱血不良 | 5点 |
| 静脈圧の上昇 | 3点 |
| 血管痛の有無 | 1点 |
| 透析後半の脱血不良 | 2点 |
| 透析後 | |
| 止血時間の延長 | 2点 |
| シャント音の異常の有無 | 2点 |

図3 STS

更に、VA超音波検査の予定や結果、血管造影の予定や結果、PTAやVA再建日も記載した。
 評価方法：STSのスコアトータル3点以上は医師へ報告し血管超音波検査を依頼した。
 スコアトータル5点以上はPTAを検討し基幹病院へ依頼した(図2)(図3)。

<結果>

2015年に比べて2016年は総患者数が増加していた。

VA超音波検査や血管造影の件数は増加しているがPTA件数は減少していた。

突然閉塞によるVA再建術依頼をする事はなかった(図4)。

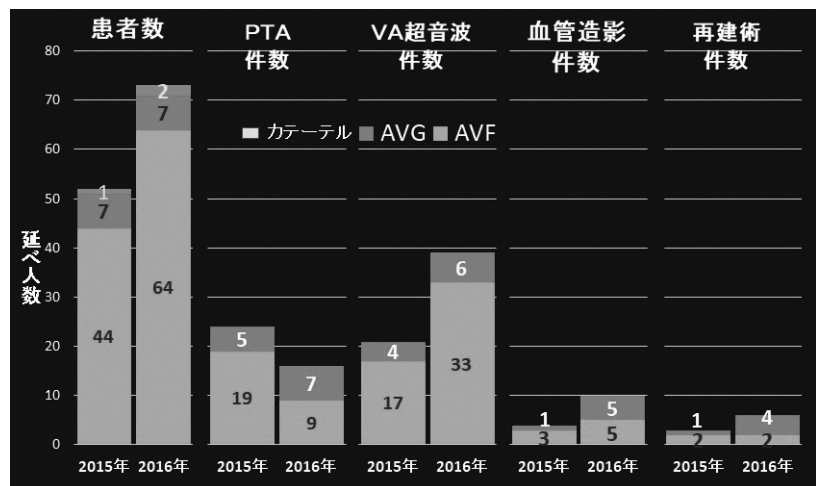


図4 結果

<考察>

STS導入前は穿刺前の聴診のみが日常多く行われていたがSTS導入により理学的診察でVAの異常の早期発見が可能になった。

また、VAチームを立ち上げた事によりスタッフ1人、1人がVAに注意深く向き合うようになり意識の向上につながった。

STSを適用する事でVA閉塞に対する緊急処置の件数が減少しシャント温存につながったと考えられる。

<結語>

STSを適用する事でスタッフ全員がVAの状態を把握できるようになった。

STSの導入はベッドサイドで継続的に評価出来、より細やかなVA管理、及びVAトラブルの早期発見に役立つ可能性が示唆された。また、患者自身のVA管理に対する関心も深まり自己管理の徹底にもつながった。

しかし、閉塞に至る前のVAトラブルを事前に検出するためには理学所見のみでの管理には限界があり今後の課題となっている。

このVA管理方法はスタッフ間の情報共有も正確かつ迅速になり、穿刺時の情報として役立つ事でより安心で安全、適切な透析医療の提供が可能になると考える。

<参考文献>

- 1) 吉澤 亮、前波輝彦：3. 日常的なVA管理法（ケア）、バスキュラーアクセスを極める
その作成とマネジメント（大平整爾編）、P152-153、日本メディカルセンター、東京、2015.